

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春を待つ植物たち

岡田敬子（千葉市）

日 時：2014年2月2日（日）10：30～12：00 天候：曇りのち雨

参加者：大人9名

担当指導員：田井中信子・岡田敬子

一年で一番寒い時期“寒”ですが、先輩のI氏がアカガエルのタマゴが45ヶ産まれていると教えてくれました。明日は節分、明後日は立春と暦の上では春が近づいているようです。大草谷津田いきものの里の概要、「生きものを持ち出さない、持ちこまない」などの注意事項を伝え、きょうのテーマ「春を待つ植物たち」植物は寒い冬を耐えて、暖かい春が来るまでどんな工夫をして寒さを乗り切るでしょうか。

入口広場、駐車場に葉っぱを地面に放射状に広げた植物があちこちにあり、ロゼットと呼ばれ、少しでも太陽の光を受けとめようと植物たちが身に付けた究極の姿である事を説明した。植物カードで春にはどんな花を咲かせるか照合した。林縁にあるムラサキシキブ、ヒメコウズ等の冬芽をルーペで観察した。観察路に入ると薄暗く、ロゼットは見当たりません。ヤツデが光を求めて放射状に葉っぱを広げている。杉林の下のイノコヅチの根もとの落葉をかき分けてみると、太い根の脇に小さな芽がいくつもあり、春を待っている様子を観察。タチツボスミレの花やフジの実、エゴの実を探していると雨が降り出した。湧水近くの田んぼのアカガエルの卵塊を観察して広場に戻った。

ロゼットは似ていても地下部の形が違っている事を持参したオオアレチノギク、ノゲシ、ハルジオン、オオバコなどの根を観察。木々の芽も形、つき方、種類、葉痕など観察する。

ケーブルテレビの取材が有り「カエルや芽吹きなど、これから谷津田も楽しみです。冬来たりなば春遠からじを実感した。雑草は強いと感じた」と感想を頂きました。

観察会の様子を俳句にしておられたご夫婦の句を紹介します。

- * 野の草の 地に葉を広げ 寒日和
- * 古株の 根方に芽ぐむ イノコヅチ
- * 雨上がり なお谷地覆う しぐれ雲

